

製品名: ST2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18320**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、ラット、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | IL1RL1 DER4 ST2 T1 |
| 別名 | Interleukin-1 receptor-like 1 (Protein ST2) |
| 遺伝子 ID | 9173.0 |
| SwissProt ID | Q01638 |
| 免疫原 | アミノ酸配列範囲 251~300 のヒトタンパク質からの合成ペプチド |

背景

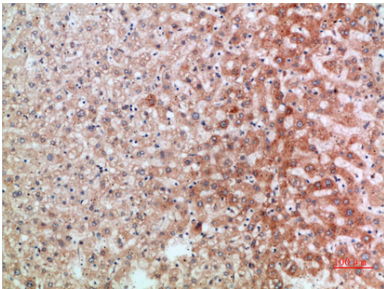
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、インターロイキン-1受容体ファミリーのメンバーです。マウスにおける類似遺伝子の研究では、この受容体は炎症誘発刺激によって誘導され、ヘルパー T 細胞の機能に関与している可能性が示唆されています。この

遺伝子は、インターロイキン-1受容体I型 (IL1R1)、インターロイキン-1受容体II型 (IL1R2)、およびインターロイキン-1受容体様2型 (IL1RL2) とともに、染色体 2q12 にマッピングされた領域においてサイトカイン受容体遺伝子クラスターを形成します。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: インターロイキン-33 (IL-33) の受容体であり、その刺激により MYD88、IRAK1、IRAK4、および TRAF6 がリクルートされ、続いて MAPK3/ERK1 および/または MAPK1/ERK2、MAPK14、および MAPK8 がリン酸化されます。ヘルパー T 細胞の機能に関与している可能性があります。類似性: インターロイキン-1受容体ファミリーに属する。類似性: 1つの TIR ドメインを含む。類似性: 3つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。サブユニット: MYD88、IRAK1、IRAK4、および TRAF6 と相互作用する。組織特異性: 腎臓、肺、胎盤、胃、骨格筋、結腸、小腸で高い発現を示す。アイソフォーム A の発現は、肺、精巣、胎盤、胃、結腸でより多くみられる。しかし、アイソフォーム B は脳、腎臓、肝臓でより多くみられる。アイソフォーム C は、脳、心臓、肝臓、腎臓、骨格筋では検出されない。、

研究分野

心血管系、血管新生、サイトカイン、インターロイキン、免疫学、自然免疫、心臓、肥大、TLR シグナル伝達

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された